

特集

住み続けたいまち千歳の将来像

現在、市のまちづくりは平成13年度から平成22年度までを計画期間とする長期総合計画により進めています。

この計画は、市のまちづくりでもっとも上位に位置づけられ、まちづくり全般にわたる総合的な計画です。市はこの計画の終了期間が近づいているため、新しい総合計画の策定作業を始めています。今月の特集では、総合計画の策定に向けて昨年9月に行った「千歳市民まちづくりアンケート」の調査結果のあらましを紹介します。

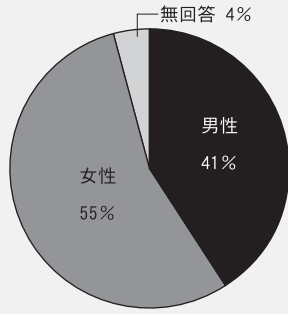
年齢

回答者の年代別では、特に突出して回答が多い年代はありません。各年代層からほぼ同じ比率で回答がありました(図2)。

出生地

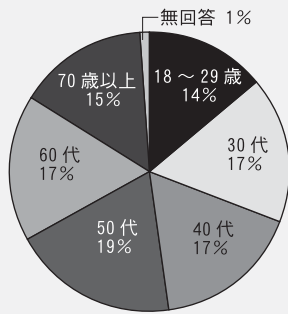
回答者の出生地は、千歳の特徴である千歳市外で生まれ千歳に引っ越してきた方の割合が、全体の4分の3以上を占めました。これは女性よりも男性に多く、年代が高まるにつれて高くなる傾向にあります(図3)。

【図1】回答者の性別

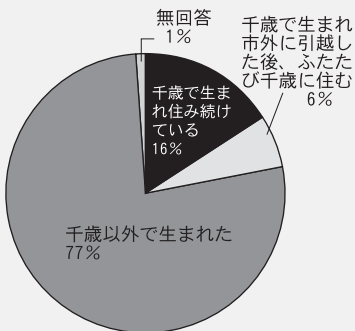


※集計結果は少数点を四捨五入した百分率(%)で表示しています。

【図2】回答者の年代



【図3】回答者の出生地

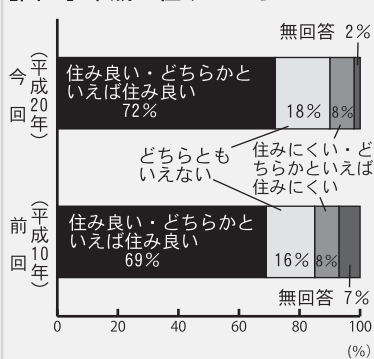


【多くの市民が住みごこちが良く、住み続けたいと感じている】

住みごこちと定住意向

千歳の住みごこちについては、72%の方が住み良いと肯定的に評価しています。住みにくいとする否定的な回答は8%でした。10年前の調査と比較しても住みごこちの評価は高まっています(図5)。

【図5】千歳の住みごこち



また、市内での転居希望も含めて78%の方が千歳での定住を望んでいます。その傾向は年代が高くなるほど高く、70歳以上では92%となりました(最低は18~29歳の59%)。千歳は住み続けたい市民が多いまちといえます(図6)。

なお、市外に移りたい方のその理由は、「医療と福祉面の不安」がもっとも多くあげられました。

北栄方面



富丘方面

